第30回 新日本スポーツ連盟

2012年3月15日（木）

全国総会NEWS

March 2012 Vol.3 ③
http://www.njsf.net

発行 新日本スポーツ連盟 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2 大住ビル 402 TEL：03-3986-5401　FAX：03-3986-5403

50周年に向けてダイナミックに

「スポーツのひろば」普及案は 修正採択

――定期全国総会終わる

3月10～11日、東京都・綿商会館にて「新日本スポーツ連盟第30回定期全国総会」が開催されました。代議員・役員・傍聴者を含め150人を超える関係者が参加し、「創立50周年を飛躍的前進の中で迎えよう」と呼びかけた議案について話し合いました。

今回の討論では、スポーツを通じた社会連帯によって、被災地復興の支援をしようという発言が相次いだことが大きな特徴でした。

「スポーツのひろば」については、①すべてのクラブに最低1人の読者をつくることを目標に取り組む②2014年から定価を290円とするという提案に対して、賛否両論の声が続出。これをふまえて、理事会は「**『新規購読者には2900円』というキャンペーンを1年間実施し、増誌に向けてチャレンジする。値下げについては継続審議とし、2013年2月の評議員会で決定する**」と再提案しました。

採択は、第1号議案については反対0・保留1・賛成90、第2号議案と第3号議案については反対0・保留0・賛成91ですべての議案が可決されました。

最後に、スポーツ権実現をめざすための協力・共同を訴える「特別決議」を採択し、盛大な拍手で承認されました。なお次期役員には、永井博会長（再）、和食昭夫理事長（再）、福島邦夫事務局長（新）ら42名が選出されました。

開会の挨拶をする永井博会長

全国総会 発言ダイジェスト

スポーツ活動・組織拡大について

▼淺沼義明さん（千葉県連盟）

2004年以降、過去4回の総会では「10万人の組織」を目標とする方針が掲げられていた。今回「10万人」がなくなり「ダイナミックにスポーツの仲間づくり運動を」と変わったのは疑問。各組織で組織拡大の目標を持つべき。また、団体種目の構成人数は「ゲーム人数 ×1.1」で計算されているが（例…野球10人、サッカー 12人）、これでは実数がわからない。正確な人数を把握するための調査をしてもよいのではないか。

▼神田孝さん（福岡県連盟）

「ダイナミック」とは「力強く生き生きと躍動するさま」。九州では福岡しか県連盟がないが、ダイナミックな取り組みで他県にもスポーツ連盟を広げていきたい。福岡でテニス大会や卓球大会を開催すると、近県各地から愛好者が集まってきている。方針にあるように、スポーツ懇談会や出前大会の取り組みに全力を尽したい。

▼渋谷昌隆さん（全国水泳協議会）

もし大会中に災害が発生したらどうすればよいかを考える必要がある。スポーツ連盟は「防災計画」をつくるべき。避難所として使われるスポーツ施設の整備改善を行政に訴えることがスポーツ団体としての任務。スポーツ科学研究所は「災害とスポーツ」のテーマを立て、資料と情報を集めてほしい。

▼山本和道さん（和歌山県連盟）

青年層の貧困化がすすみ、スポーツにかける時間やお金を減らさざるを得ない状況が広がっている。和歌山県連盟では柔軟で大胆なスポーツ活動の組織化に挑戦しようと、今年の総会で「2015年までに1000名にする」という目標を決めた。県連盟のホームページを開設したところ、ウォーキング関係のテレビ会社や和歌山電鉄主催のマラソン大会事務局から協力依頼が届くなど反響があった。

スポーツ要求について

▼松浦孝之さん（北海道連盟）

北海道連盟では毎年、札幌市に対するスポーツ要求に取り組んでいる。施設の老朽化が進んでいるところを写真で示して訴えている。今年は、初めて担当課長に直接会って回答の説明を受けることができた。

▼和田利男さん（兵庫県連盟）

スポーツ基本法を実践するために、スポーツ連盟全国並びに各都道府県連盟の役割は重要となる。兵庫県連盟では神戸市・兵庫県に要望書を提出している。神戸市からは、スポーツ祭典に10万円の補助金をもらっている。スポーツを権利として活動する代表として、自治体への交渉を大いに行なう必要がある。

▼酒井俊二さん（全国野球協議会）

静岡市スポーツ振興課は、安倍川河川敷グラウンド（106ヶ所）を「日本一のスポーツ施設」と言う。ところが実態調査すると、グラウンドの状態はひどく、トイレ・水道・ベンチも整備されていない。静岡県野球協議会は、実態調査の写真とグラウンドの土を持って、市スポーツ振興課と団体交渉を行なった（スポーツ連盟から80人）。その結果、施設の整備がかなり改善された。

被災地復興支援について

▼芳野哲明さん（宮城県連盟）

昨年9月に実施した陸上大会には、沿岸部の中学生を中心に900名を超える参加者が集まった。「仲間と会えて涙が出た」「スポーツは生きる力ですね」という声を聞いた。新春マラソンの会場が津波の被害に遭い、この大会が開催できなくなったため、宮城県連盟は財政的に厳しい状況。今まで義援金ありがとうございます。これからもご支援をお願いしたい。

▼石川友好さん（日本勤労者山岳連盟）

日本勤労者山岳連盟では、支援Tシャツを3000枚販売し、義援金1900万円を送り、2000人以上のボランティアを現地に派遣する取り組みを行なった。加盟している被災者からは「山の仲間に助けてもらうとは思わなかった」という声も。また、福島県を中心に登山道の放射線量を調査し、専門家に分析してもらっている。

全国総会 発言ダイジェスト つづき

▼田畑健さん（全国スキー協議会）

スキー協議会では、被災地の子どもたちを無料でスキーに招待している。この取り組みは、他の種目からの募金やスキー場、ホテルの協力など多くの人の力があってできること。この場を借りて感謝申し上げたい。

▼島崎卓也さん（神奈川県連盟）

神奈川県連盟では、福島県からとどろきアリーナ（川崎市）に避難生活している人たちとスポーツ交流を行なった。多くの子どもが参加し、また親たちも入って卓球やバドミントン、体操運動などを楽しんだ。

▼斉藤弘さん（全国ランニングセンター）

今年の全国スポーツ祭典陸上競技大会では、東北３県から30名のランナーを国立競技場に招待する予定。そのために、各地の大会で参加費にひとり100円上乗せして財源を集める取り組みをしている。

▼平井正さん（岩手県連盟）

岩手県勤労者山岳連盟では28名の被災者。日本勤労者山岳連盟や新日本スポーツ連盟から義援金をいただいた。ありがとうございました。山の道具を流されてしまった会員に、雨具やザック、靴を購入した。現在では被災した会員も交えて、登山を再開している。

► 来賓あいさつ

宮本 岳志さん
（日本共産党衆議院議員）

私はラグビーをやっています。「国会ラグビーチーム」の一員です。我がチームのキャプテンは森喜朗氏。文字通り党派を超えて、自民党も民主党も共産党も全員でスクラムを組んでラグビーをしています。

政治のほうでも党派を超えて、「スポーツ議員連盟（超党派）」のひとりとして、スポーツ基本法の制定に関わりました。この基本法をより良いものにするために、私は文部科学委員会で何度も修正を訴えました。そして、このスポーツ基本法で、国民のスポーツ権が初めて明記されました。これは画期的なことです。新日本スポーツ連盟の皆さんの長年にわたる運動が、ついにここまで政治を動かしたと思います。

では現在、国民のスポーツ権が身の回りで保障されているかというと、そうではないことはご承知の通りです。私たちの暮らしのなかでスポーツ権を実現するために、この総会をスタートに一層奮闘することを期待します。そのために日本共産党も協力して、全力を尽くす決意です。

大野 晃さん
（スポーツジャーナリスト）

東日本大震災とスポーツ基本法の制定、この1年間で２つの大きな事がありました。「スポーツ権を！」と、50年以上も必死に訴えていたものが、スッと決まっちゃった。ただし、ほとんどの人はスポーツ基本法がどういう意味を持っているかを知りません。権利と言われても、今までとどう違うのかわからないと思います。

震災が起きて、トップレベルの選手は初めて「僕たちはどうしてスポーツをやっていられるんだろう？」と真剣に考えました。そして「スポーツができる喜び」とか「みんなに支えられてスポーツをしている」という発言が自然に出てくるようになりました。

「技術は低いけど意識の高いスポーツ連盟の皆さん」と「意識は低いけど技術は高いトップアスリートたち」がかなり接近しているんですね。その橋渡しは何だろう。それを考えるのがこの総会ではないでしょうか。

これにはマニュアルや手本はありません。新しく開拓するものです。しかし世界には、参考になるものがあるかもしれない。そういう意味では、広い目を持って自分たちがどうしたらいいのかを考える１年になると思います。

※来賓 伊藤高弘顧問のあいさつは「スポーツのひろば」5月号に掲載します。

『スポーツのひろば』について

▼脇海道博さん（三重県連盟）

値下げに賛成。現在の「ひろば」は宣伝誌的な要素が強い。「全国連盟通信」の内容も入れて、もっと機関誌の要素を強めたらどうか。

▼松岡和生さん（福岡県連盟）

反対。値下げすることで単純に増えるとは思えない。財政的に大丈夫なのか。神奈川県連盟のように読者会を行なうなど地道な普及活動が大切。

▼西村文男さん（福岡県連盟）

賛成。担当者を置いて常に拡大・集金・配布と追求してアタックしなければ増えない。機関誌をどのように位置づけるか論議が必要。

▼村山正三さん（岩手県連盟）

賛成。「ひろば」は機関誌として、読者にとって為になる内容にしなければならない。それをスポーツ連盟の活動の武器にするべき。値下げを断行し、増誌の目標を決め、実行する、それ以外に道はない。

▼植山良和さん（全国サッカー協議会）

賛成。サッカー協議会では既に１チーム１冊を義務づけている。今年の全国サッカー協議会総会で、値下げをしたら現状の1.5倍の購読をすることを決定した。

▼金子泰夫さん（千葉県連盟）

反対。各地で「ひろば」拡大の論議がされていない。値下げについて、増誌の「見込み」での提案となっているのは問題がある。

▼三浦二郎さん（東京都連盟）

反対。2003年に価格の改定を検討する会議に参加したが、９年前は値下げしたからといって、増えなかった。450円は高いと思うが、各組織で「ひろば」について論議をしていないのではないか。

▼渡辺功一さん（全国ソフトボール協議会）

賛成。郡山早起ソフトボール協議会の機関紙は個人成績が全部載る。当人が載れば必ず読むもので、様々な記録を載せることが普及の原点になると思う。

▼西良子さん（福岡県連盟）

４月号はカラーで、中身を開けてみたいと思わせる。栄養に関することも載っているので、友達に勧めたい。

▼岡本好子さん（愛知県連盟）

反対。各都道府県連盟のマージンがなくては、発送作業ができない。290円はあり得ない。

● 総会決議 第３章（４）を以下のように修正します。

１、スポーツ連盟の機関誌として『スポーツのひろば』を都道府県連盟所属のすべてのクラブ（3,660クラブ）のなかに最低１人の読者をつくることを目標に各連盟組織があらゆる努力をかたむけて取り組むことをよびかけます。そのために、「『スポーツのひろば』普及キャンペーン第５弾」として、１年間の期間限定で、連盟構成員の新規読者の購読料を年間2,900円（送料含め3,600円）とし、都道府県連盟のすべての連盟組織が、クラブに最低１人の読者実現にチャレンジすることとします。あわせて、今まで以上に誌面の充実のために英知を集める努力をすすめます。また、多様な読者会を持つなど活用方針を各連盟組織が持つよう支援します。

２、2014年より、『スポーツのひろば』の定価を450円から290円に値下げする提案については、継続審議とし、この１年間の普及活動へのチャレンジの結果を踏まえて、改定価格およびその賛否について、2013年２月の第30期第１回評議員会において決定することとします。

第30期 役員一覧　氏名（年齢）推薦基盤

○会長
永井博　(75) 理事会

○副会長
川野弘之 (67) 理事会
水門輝一 (69) 理事会
野口信彦 (69) 理事会

○理事長
和食昭夫 (68) 理事会

○副理事長
青沼裕之 (53) 理事会
石川正三 (60) 全国スキー協議会
伊藤司男 (68) 岩手県連盟
岩波道子 (68) 全国卓球協議会
北川 登　(64) 全国卓球協議会
斉藤義孝 (63) 日本勤労者山岳連盟
萩原純一 (62) 東京都連盟
渡辺紀雄 (61) 大阪府連盟

○事務局長
福島邦夫　(54) 理事会

○理事
青嶋繁太郎 (71) 理事会
淺沼義明　(69) 千葉県連盟
天川有美　(50) 全国テニス協会
伊賀野明　(70) 理事会
池田 誠　(38) 全国野球協議会
板垣美和子 (58) 理事会
大友津代　(61) 宮城県連盟
岡本 清　(63) 愛知県連盟
神田 孝　(61) 福岡県連盟
聞間 至　(61) 東京都連盟
小林章子　(60) 東京都連盟
佐藤信樹　(35) 理事会
城川善行　(47) 理事会
竹折冨美子 (66) 全国卓球協議会
田中宏子　(45) 全国スキー協議会
富内佳男　(62) 徳島県連盟
長井健治　(31) 理事会
永谷祐一 (51) 全国テニス協会
根岸清和 (43) 全国ランニングセンター
橋本圭司 (40) 全国サッカー協議会
花村哲也 (68) 日本勤労者山岳連盟
松岡陽治 (57) 京都府連盟
三木正弘 (64) 全国ウォーキング協議会
吉成克実 (53) 神奈川県連盟
脇村元夫 (58) 理事会
和田利男 (59) 兵庫県連盟

○監事
松浦七郎　(68) 全国スキー協議会
宮久保加乃子 (68) 全国水泳協議会

※３期にわたって事務局長をされた桑名令子さんは、３月31日付で退職されることになりました。